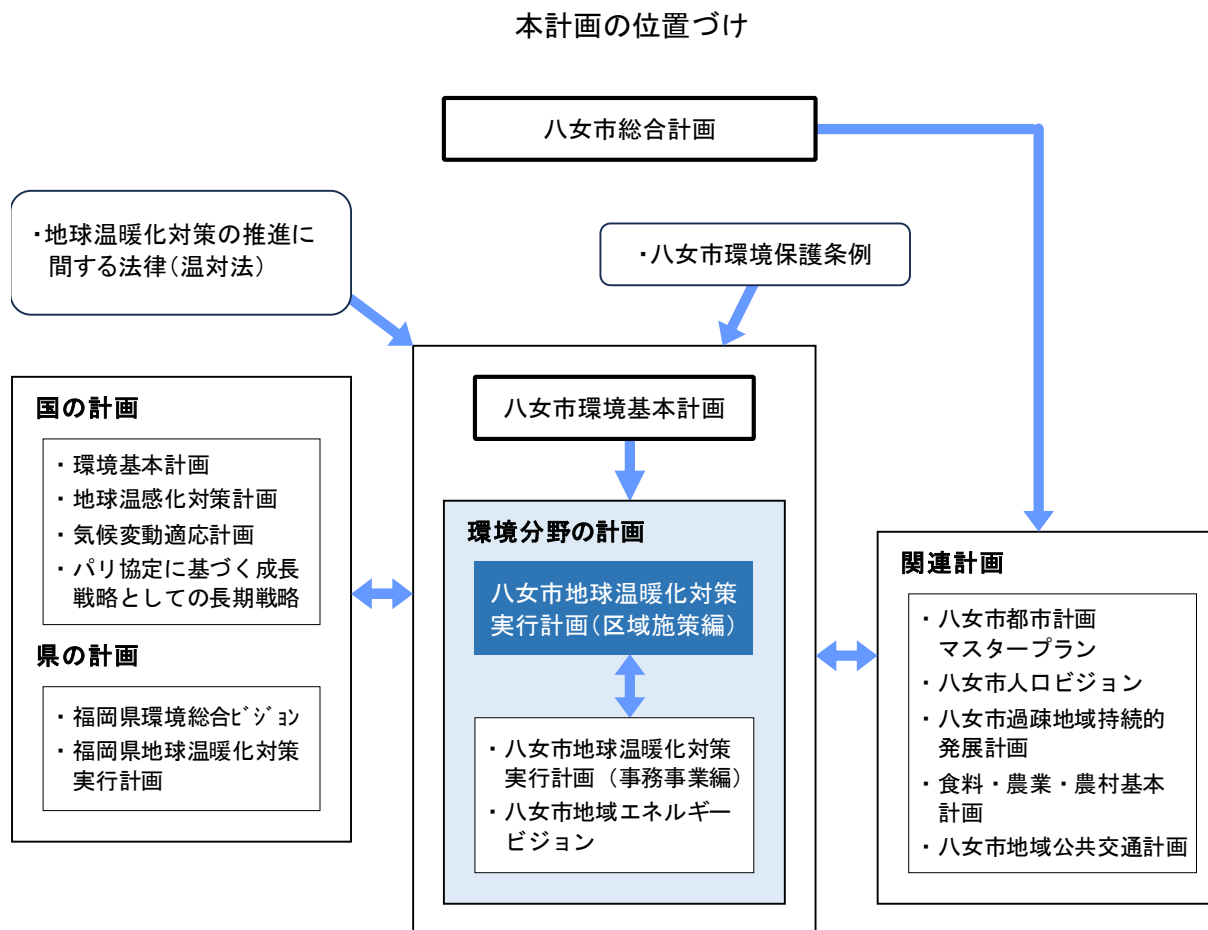


第2章 計画の基本的事項等

第2章 計画の基本的事項等

第1節 計画の位置づけ

- 本計画の策定にあたっては、市で推進するその他の環境に関する計画や事業と整合を図ります。



- 本計画とより関連性の強い計画である「八女市総合計画」、「八女市環境基本計画」及び「八女市地域エネルギービジョン」について、次に説明します。

本計画と関連性の強い計画及びその概要

計画名		概要
八女市総合計画 (第5次)		八女市総合計画とは、八女市のまちづくりや施策推進の方向性を示す市の「最上位計画」として位置づけられるとともに、総合的かつ計画的な「市政運営の基本的な指針」となるものです。
八女市環境基本計画		八女市環境基本計画とは、八女市総合計画を環境面から実現するための計画であり、「八女市環境保護条例第2条に規定する必要な施策」を明示しています。
八女市地域 エネルギービジョン		八女市地域エネルギービジョンとは、エネルギー関連事業を通し、脱炭素社会の実現を進めるとともに、環境に負荷をかけない持続可能なまちをつくることを目指す概略的な計画であり、「エネルギーにかかる事業方針」を明示しています。
八女市地球温暖化 対策実行計画	事業編 事務	事務事業編は、市が実施している事務及び事業に関し、温室効果ガス排出量を削減する事を目的にした計画で、「省エネルギー・省資源化及び再生可能エネルギー施設の導入等を推進すること」を明示しています。
	施策編 区域	区域施策編は、市区域(市内)からの温室効果ガス排出量を削減することを目的にした計画で、「市民、事業者、市などの各主体が総合的かつ計画的な取り組みのためのより具体的内容等」について、明示するものです。 ※詳細は第2節 計画の目的に記載

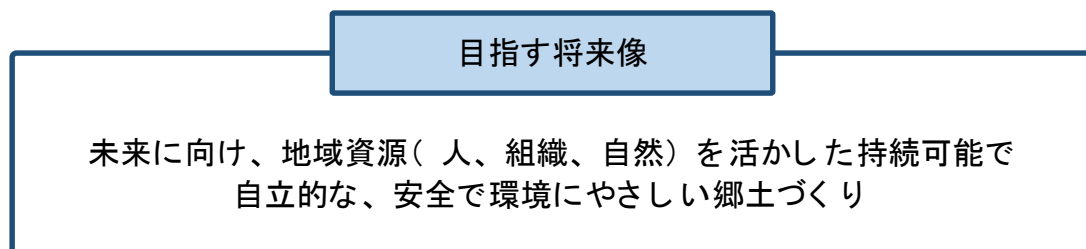
第2節 計画の目的

- 八女市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（以下、本計画）は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第21条第4項に基づいて策定します。
- 本計画は、区域からの温室効果ガス排出を抑制し、進行中の地球温暖化に対応するために、市民、事業者、市などの各主体が総合的かつ計画的に取り組むことを目指しています。
- この計画は、八女市の自然のおよび社会的条件に配慮しながら、温室効果ガスの排出抑制および削減を推進するためのものです。
- これにより、地域社会の持続可能な発展を促進し、地球温暖化対策への貢献を目指すとともに、地域住民や事業者に対して環境問題への意識向上と具体的な行動変化を促すことを目的とします。
- 本市は、豊かな森林資源からのバイオマスエネルギー、高低差のある水源を利用した小規模水力発電、そして豊富な日照量を利用した太陽光発電など潜在能力があることから、それらを最大限に活かした八女市らしさを特徴とした計画とします。

第3節 計画の目指す将来像

- 本市の上位計画や環境関連の計画の目指すべき姿を考慮し、本市が目指す将来像を以下のように定めるものとします。

計画名	概要
八女市総合計画 (第5次)	地域社会を取り巻く環境が大きく変容していく中であって、豊かで多様な価値観を背景とする市民の暮らしを持続可能な形で支える指針となるまちづくり計画
八女市環境基本計画	八女市総合計画を環境面から実現するための計画であり、八女市環境保護条例第2条に規定する「必要な施策」を明示する環境計画
八女市地域 エネルギービジョン	エネルギー関連事業を通し、脱炭素社会の実現を進めるとともに、環境に負荷をかけない持続可能なまちをつくることを目指す計画



第4節 計画期間

- 本計画の基準年度、目標年度、計画期間を下記に示します。

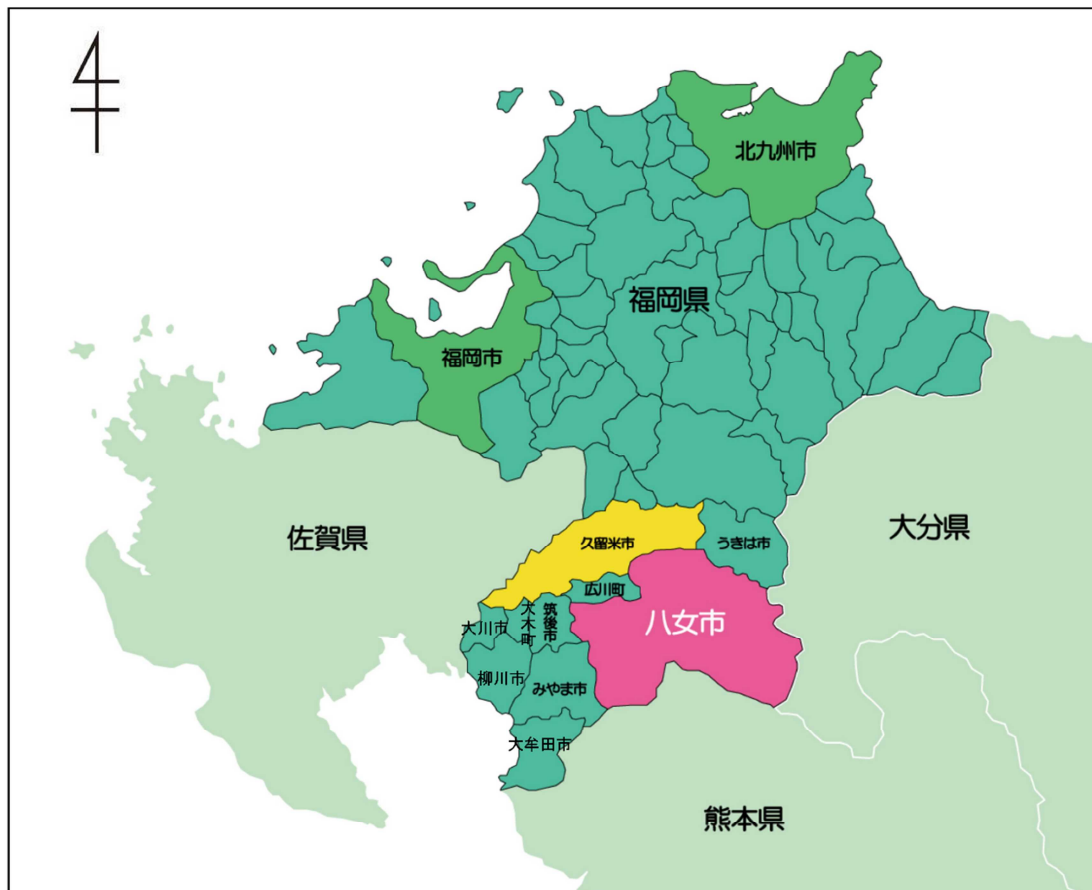
計画の期間										
和暦	平成 25 年	...	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	...	...	令和 12 年	...	令和 32 年
西暦	2013	...	2021	2023	2024	...	...	2030	...	2050
実施年	基準		現状 年度		対策・施策の進捗把握 定期的に見直しの検討			目標 年度		長期 目標
					← 計画期間 →					

- パリ協定の趣旨を踏まえ、地球温暖化計画に即する観点から、2013 年度を基準年度とし、2030 年度を目標年度とします。
- 計画期間は令和 7 年度から令和 12 年度までの 6 年間とします。

第5節 区域の特徴（自然的社会的条件及び各主体の特徴等）

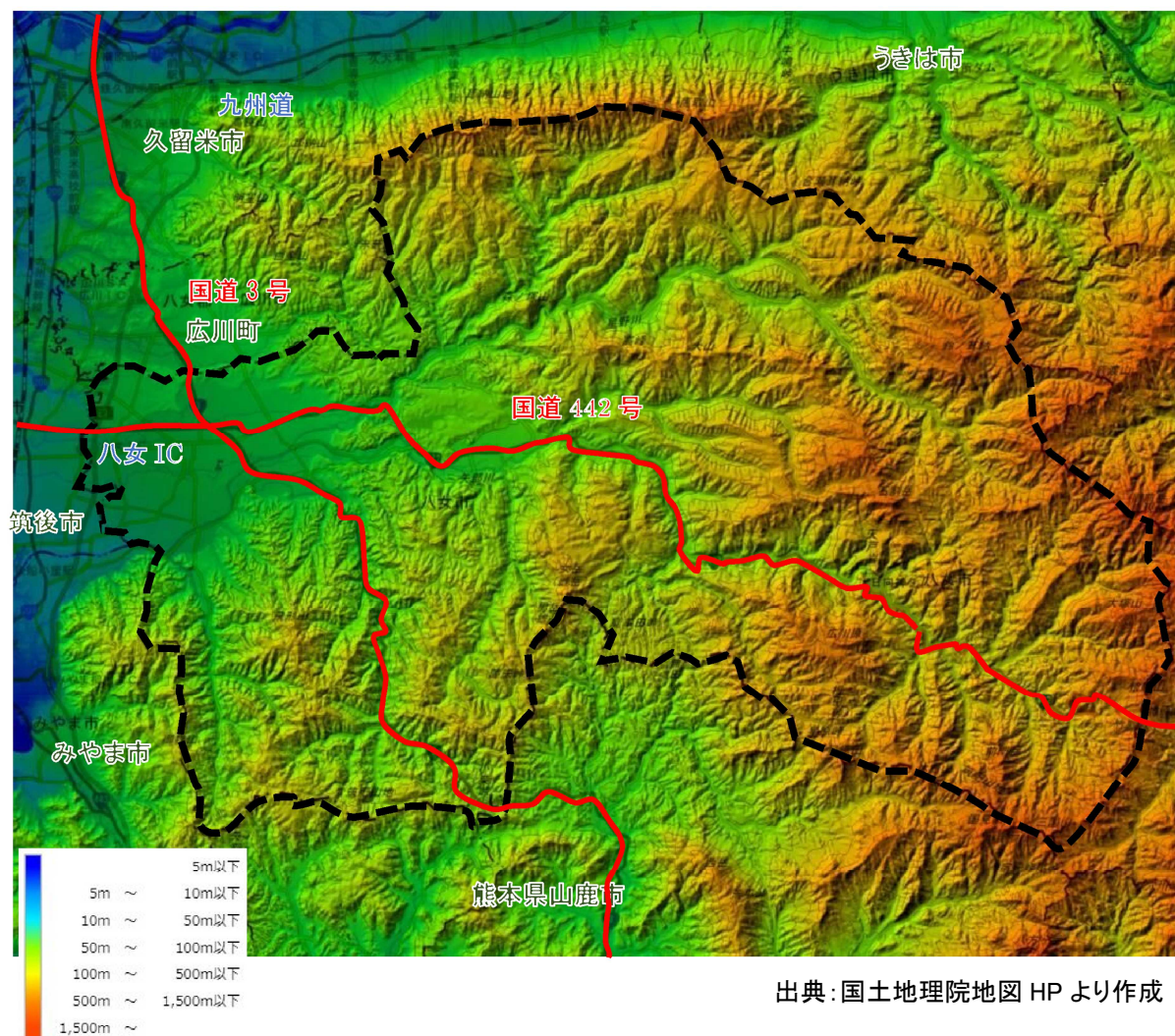
1 位置・地勢

- 八女市は、県庁所在地の福岡市からは約 50 km離れており、北は久留米市、広川町、うきは市、西は筑後市、みやま市、南は熊本県、東は大分県に接しています。



八女市の位置

- 八女市の総面積は 482.44km² で、県内では北九州市に次ぐ広大な面積です。地形は、西部が平野部、東部が山間部となっており、森林が面積の約 66%を占めています。また、一級河川の矢部川やその支流の星野川など、大小の河川が、概ね市域の東から西にかけて流れています。
- 市の東部地域の北側から東側は耳納山地、南側は筑肥山地と標高 500m 以上の山地に囲われています。
- 市の西部地域は、国道 3 号が南北を貫き、これと交差して国道 442 号が東西に走り、西端には九州自動車道が通じ、八女インターチェンジがあります。



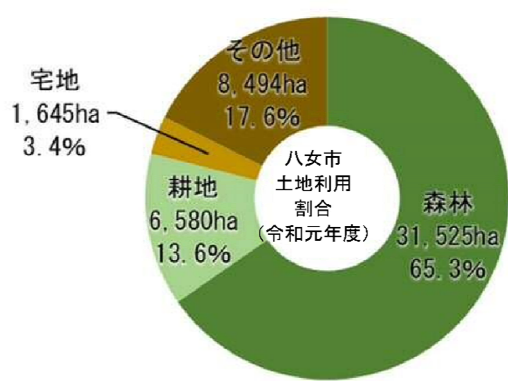
八女市の地勢

- 本市の中南部は平野、北東部は大分県・熊本県と接する山間部であり、県境に位置する三国山（筑後山地）から流れ出る矢部川は日本最大の干潟を有する有明海に注ぎ、有明海の生態系を形成する重要な河川の一つとなっています。
- この山間部は全体的に急斜面で地質が脆弱であり、地すべりなどの危険箇所が多く点在しています。矢部川には多くの支流が合流し、集中豪雨による水害が頻繁に発生します。山と川に囲まれた地形は、台風や大雨により道路が寸断され、孤立した集落を引き起こすことがあります。
- 本市西部の地質は、矢部川の扇状地を中心に沖積層で形成され、市東部の地質は、主として雲母片岩を母岩とする秩父古生層並びに凝灰質角礫岩、輝石安山岩を母岩とする第三紀熔岩で形成されています。

2 土地利用

- 八女市の面積は、全体で 48,244ha と県内で 2 番目の広さとなっています。
- 土地利用の割合は森林面積が 31,525ha、耕地面積は 6,580ha、宅地面積は 1,645ha となっており、森林面積が全体の 65.3% を占めています。また、耕地面積は減少傾向で、平成 24 年から 200ha 減少しています。宅地面積は増加傾向にあり、平成 24 年から 88ha 増加しています。

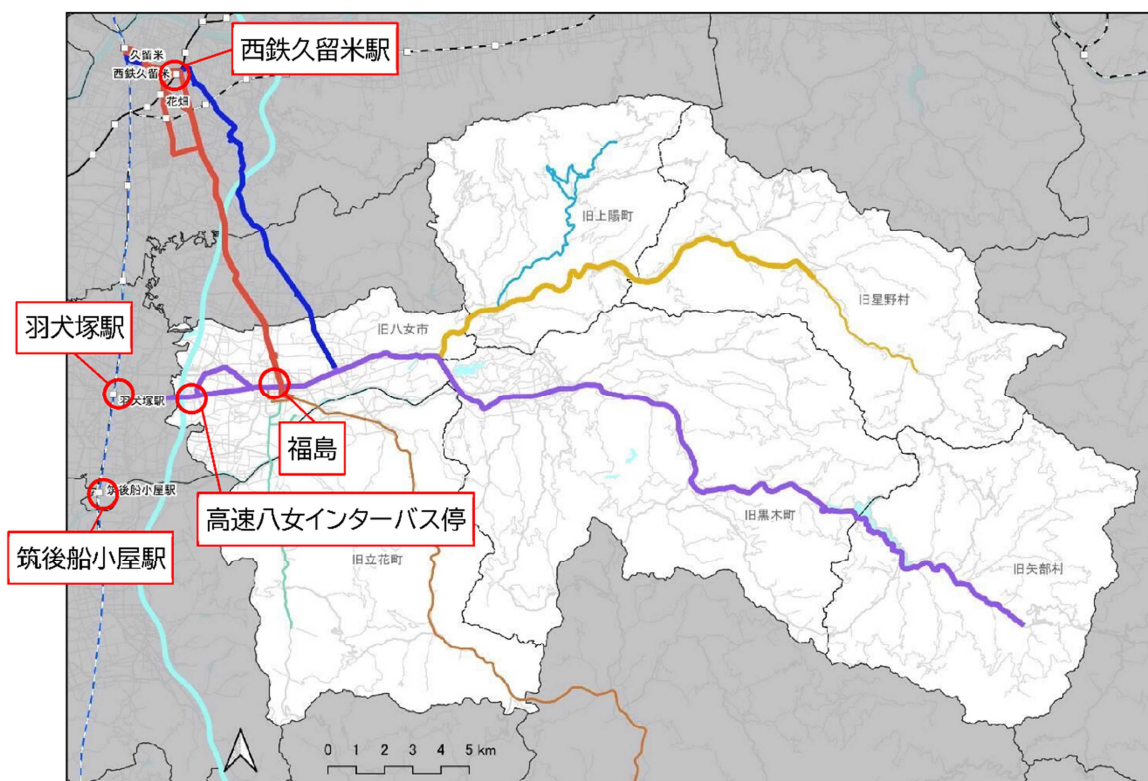
出典: 第 2 次 八女市食料・農業・農村基本計画



八女市の土地利用の割合及び耕地面積・宅地面積の推移

3 公共交通ネットワーク

- 八女市内に鉄道はなく、最寄りの駅は筑後市の羽犬塚駅です。
- 市外への交通は、東西方向に堀川バス羽矢線が矢部、黒木、福島、羽犬塚駅を結び、南北方向には西鉄バス福島線と堀川バス久留米線が福島、広川、久留米を連絡しています。
- 広域への移動については、バス路線では高速八女インターバス停から福岡空港、天神、熊本方面への高速バスが利用可能で、鉄道では筑後市の筑後船小屋駅で九州新幹線に、羽犬塚駅で鹿児島本線に接続できます。
- また、市内の交通は堀川バス羽矢線を主軸に、幹線の堀川バス星野線（福島～十箆車庫）、支線の堀川バス星野線（十箆車庫～浦）、堀川バス横山線、堀川バス白木線、堀川バス辺春線によって路線網が形成されています。



八女市の公共交通ネットワーク

第2章 計画の基本的事項等

- 地区内では、市が運営する予約型乗合タクシー「ふる里タクシー」が主な支線交通となり、路線バスと「ふる里タクシー」によるフィーダー輸送が行われています。



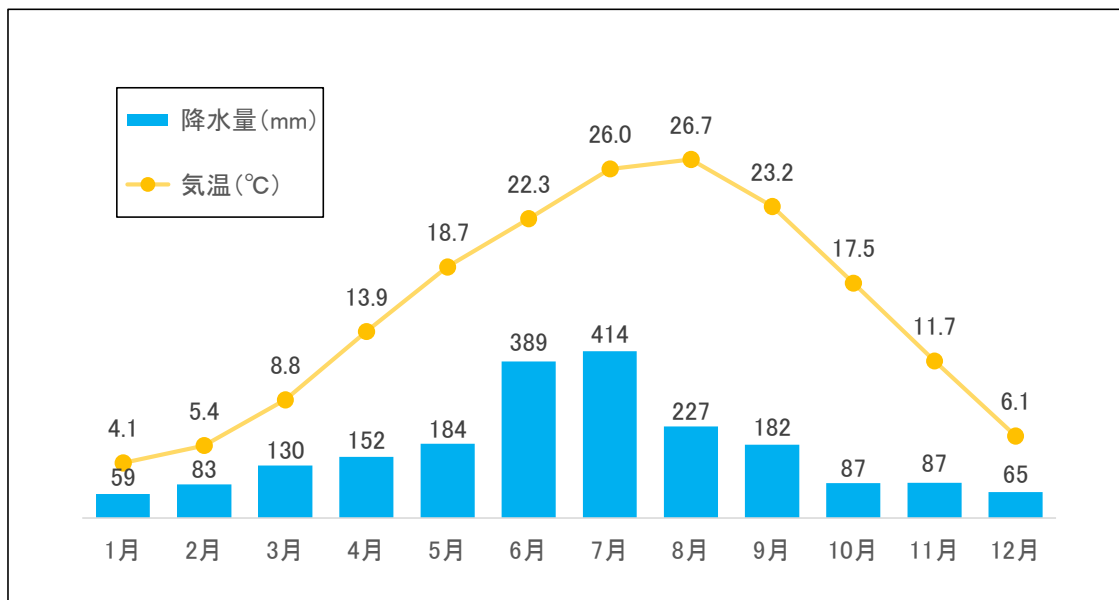
「ふる里タクシー」の運行エリア



「ふる里タクシー」の写真

4 気候

- 下記に「八女市黒木観測所における過去30年間（1991～2020年）の月別平均気温・降水量」のグラフを示します。



八女市黒木観測所における過去30年間（1991～2020年）の月別平均気温・降水量

- 本市の気候は、地理的、地勢的に複雑な環境にあり、季節の推移だけでなく、同じ季節でも市西部の平坦部と東部の中山間地により、差異が認められます。
- 年平均気温は、約15.4℃、年平均降水量は2,058 mm程度で、比較的温暖であるといえますが、冬季は山間地の一部で積雪等のため交通障害を招くこともあります。
- 下記に「八女市黒木観測所と全国・他県の年間平均気温・降水量・日照時間」の表を示します。

八女市黒木観測所と全国・他県の年間平均気温・降水量・日照時間

地 区	気温 (°C)	降水量 (mm/年)	日照時間 (h/年)
八女市黒木観測所	15.4	2,058	1,877
全国※	15.0	1,662	1,916
福岡県	17.3	1,687	1,889
佐賀県	16.9	1,951	1,971
大分県	16.8	1,727	1,992
熊本県	17.2	2,007	1,992
山口県	15.6	1,928	1,862

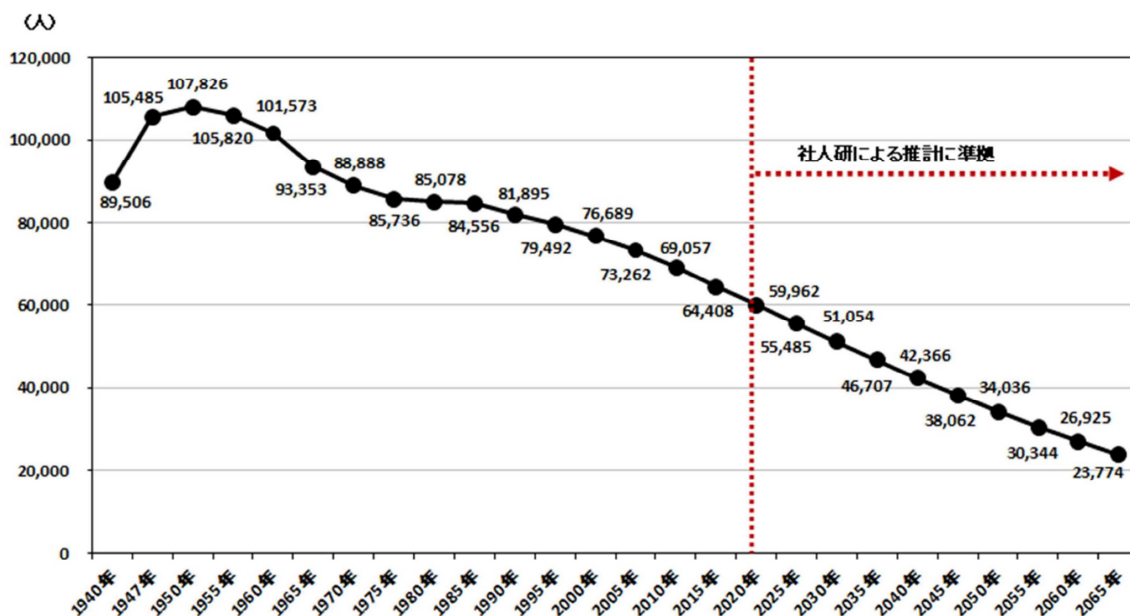
※全国平均値は、全国47地点の単純平均

- 八女市黒木観測所の平均気温は 15.4℃で、これは全国平均(15.0℃)と比べて僅かに高いです。また、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県の平均気温よりも少し低く、山口県の平均気温とほぼ同様です。
- 八女市黒木観測所の年間降水量は 2,058mm で、これは全国平均(1,662mm)を大きく上回っています。また、福岡県、佐賀県、大分県、山口県の降水量よりも多く、熊本県の降水量とほぼ同様です。
- 八女市黒木観測所の年間日照時間は 1,877 時間で、これは全国平均(1,916 時間)よりも少し短いです。さらに、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県の日照時間よりも短く、山口県の日照時間とほぼ同様です。
- 以上の情報から、八女市黒木観測所は湿度が高く、日照時間が少なめで、気温は全国平均とほぼ同様であると言えます。

5 人口

(1) 総人口

- 下記に「八女市全体の人口の推移と将来推計」のグラフを示します。



八女市全体の人口の推移と将来推計

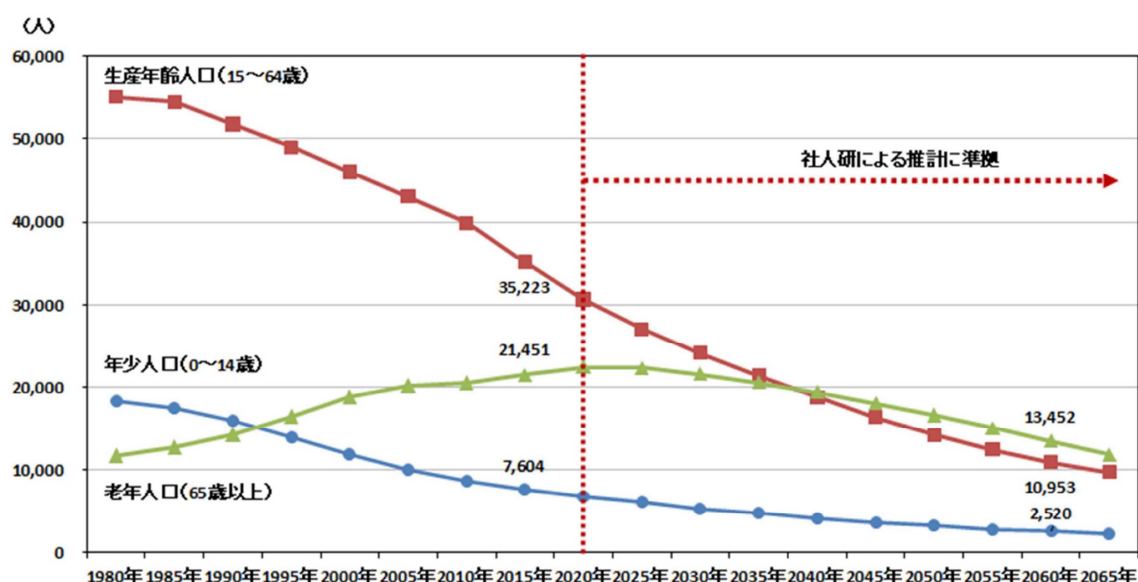
- 人口の推移をみると、戦後の復員やベビーブームに伴って、1947 年（昭和 22 年）に人口が大きく増加し、1950 年（昭和 25 年）には人口のピークを迎えました。
- その後、1955 年（昭和 30 年）から 1975 年（昭和 50 年）まではやや大きく人口が減少していますが、これは高度経済成長期やバブル経済期において、都市部など

への流出が進んだためと考えられます。

- その後は 1985 年（昭和 60 年）まで、人口の減少は比較的ゆるやかになっていいますが、1990 年（平成 2 年）以降は、少子高齢化などの影響もあり、徐々に人口の減少が加速しています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、本市では今後も人口の減少が続き、2060 年（令和 42 年）には、2015 年（平成 27 年）の人口の 41.8% まで減少すると予測されています。

（2）生産年齢人口推移

- 下記に「八女市の生産年齢人口推移」を示します。

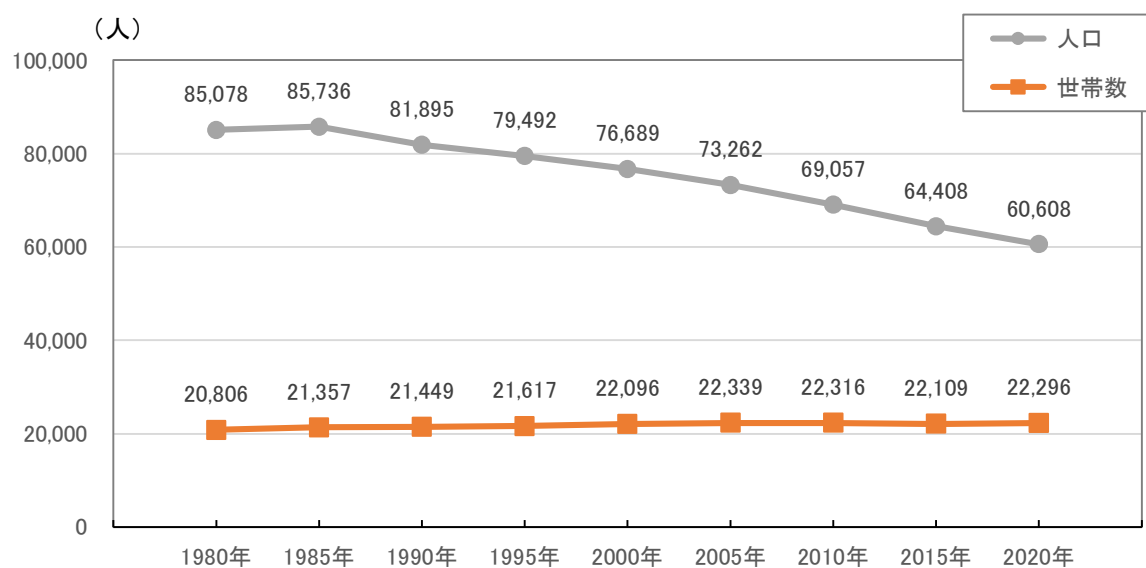


生産年齢人口・年少人口・老年人口の推移と将来推計

- 生産年齢人口は、総人口と同様に一貫して減少しており、2060 年（令和 42 年）には、2015 年（平成 27 年）に対して 31.1%に減少すると予測されています。
- 年少人口は、一貫して減少しており、2060 年（令和 42 年）には、2015 年（平成 27 年）に対して 33.1%に減少すると予測されています。
- 老年人口は、2020 年（令和 2 年）をピークに減少しており、2060 年（令和 42 年）には、2015 年（平成 27 年）に対して 62.7%に減少すると予測されています。
- 人口は八女地域に集中しており、その他の地域は過疎化が進んでいます。

(3) 世帯数

- 下記に「八女市の世帯数及び人口推移」を示します。



八女市全体の人口の推移と世帯数の推移

- 1980年から2020年までの間に、世帯数は20,806世帯から22,296世帯へと少しずつ増加しています。
- 同じ期間に人口は85,078人から60,608人へと減少しており、特に1990年以降の減少が顕著です。
- 世帯数に対して人口が減少していることから、平均的な世帯の大きさは減少傾向にあると考えられます。
- 人口が減少しているにもかかわらず、世帯数が増えているのは、単身世帯や小家族化が進んでいることが推察されます。